

本当の教えに出遇うことは「生きる」ことから、「生かされる」ことへの大転換

無碍の一通 第28号

発行:2013年10月23日
発行者:淨土真宗本願寺派 長尾山 天龍寺
〒739-0147 副住職 天野英昭
東広島市八本松西6丁目10番1号
TEL・FAX 082-428-0160・082-428-1360

報恩講並びに秋季永代経法座

親鸞聖人のお法りを喜ばせていただきましょう

日 時 11月16日（土） 9:00～15:00頃

ご講師 北山 祐章師（福山市沼隈町 光源寺副住職）

朝席 9時～11時頃

お斎とき（お食事） 地元で取れた季節のお野菜を使って、地域の皆様が
精進料理を用意してくださいます。

昼席 13:00～15:00

第27回歎異抄輪読会

日 時 11月21日（木） 19:00～20:30頃

ご講師 松田正典先生（広島大学名誉教授）

費 用 500円

参加者 天龍寺の門信徒の方のみならず、どなたでも参加は自由です。

お知らせ

★コラス練習

11月18日（月）9:30～11:30

会員の方のみならず、どなたでも参加は自由です。たくさんの皆様のご参加をお待ちしております。

曲目：「ふるさとは今もかわらず」「いのちの歌」、なつかしい童謡もうたいます。



★天龍寺佛教壯年会 月例会

10月30日（水）19:00～20:30

最近しみじみ思うところです。

「花には人間のようにかけひきがないから良い。ただ咲いてただ散ってゆくから良い。ただになれない人間のわたし」「人知るもよし 人知らぬもよし 花は咲くなり」 花には人間のように、知恵・自我・欲望がないから美しいし、私たちに喜びや安らぎを与えてくれるのかも知れません。人間のようにハカラライ、欲望を抱き、自我に執着すれば、周りの眼が気になり、駆け引きもするようになります。世間の眼・評価・優劣を気にするようになります。花は人に知られようが、人に知られまいが、ただ咲いてただ散っていくところに花の偉大さがあると思います。

本当にただになれない人間の私です。「花を見る 花も見ている」のかも知れません。ただになれない私は、恥ずかしいと気づかせてくださる仏さまの智慧・光、仏さまの慈しみの眼を生きる支えとし、大いなるいのちの働きにまかすしかないと言われます。

しかし、この様な事を幼い時から聞かせていただきながら、この先の生活は大丈夫なのか？ 健康・経済的な事等、様々な事に思いをめぐらせながら、役に立つ・役に立たない、得か損か、勝った負けた等で、日々の生活に窮しているわたしです。

今年で56歳になりますが、自分の人生を振り返っても、今申しましたような事に囚われながら毎日過ごしてきたと思います。

また、自分に甘いと思いますが、教員時代もそうであったように、この様な生き方をしなくてはならない等、自分自身の理想にふりまわされながら、理想通りには生きていけない自分になされなさを感じことがあります。

しかし、この様な自分だからこそ阿弥陀様のご本願があるのかと思うとありがたいと、勝手に自分で思っております。歎異抄第9条の「他力の悲願はかくの如きわれらがためなりけり」のお言葉は、私に言ってくださっているお言葉としみじみ感じるこの頃です。

心よりお悔やみ申し上げます。そして心よりお礼を申し上げます。



先般私が大変お世話になった奥様がご逝去されました。

今、私が法務で使用させていただいておりますお念珠入れは、その奥様に作って頂いた物で、また当山の玄関に置いてあります草履もその方に作っていただきました。

その方との出会いは亡きご主人様のご縁でした。以来、約2年に渡りご縁をいただきました。母が生きていましたら、その奥様とほぼ同年ということもあったのかもしれません、今振り返りますと私も好き勝手な事を申していたと反省しております。

しかし、出会いとは本当に不思議な物だと思います。これもよく申しますが、ご縁があれば遠くの方ともご縁をいただくこともあります。しかし、ご縁がなければ同じ町内でも言葉等を交わすことなくこの短い一生を過ごすのかとも思います。

親鸞聖人が教行信証の中で、「たまたま 行 信を獲ば、遠く宿縁を慶べ」と言われております。この「たまたま」という偶然の中に、多くの因縁によりご縁をいただいたから故に、この言葉の中には深い感動・感謝等もこめられていると個人的には思っております。

その奥様をはじめ多くの方とのご縁も、親鸞聖人のおもい等とは比較にならないと思いますが、私なりに心より感謝申し上げるしだいです。

南無阿弥陀仏・南無阿弥陀仏